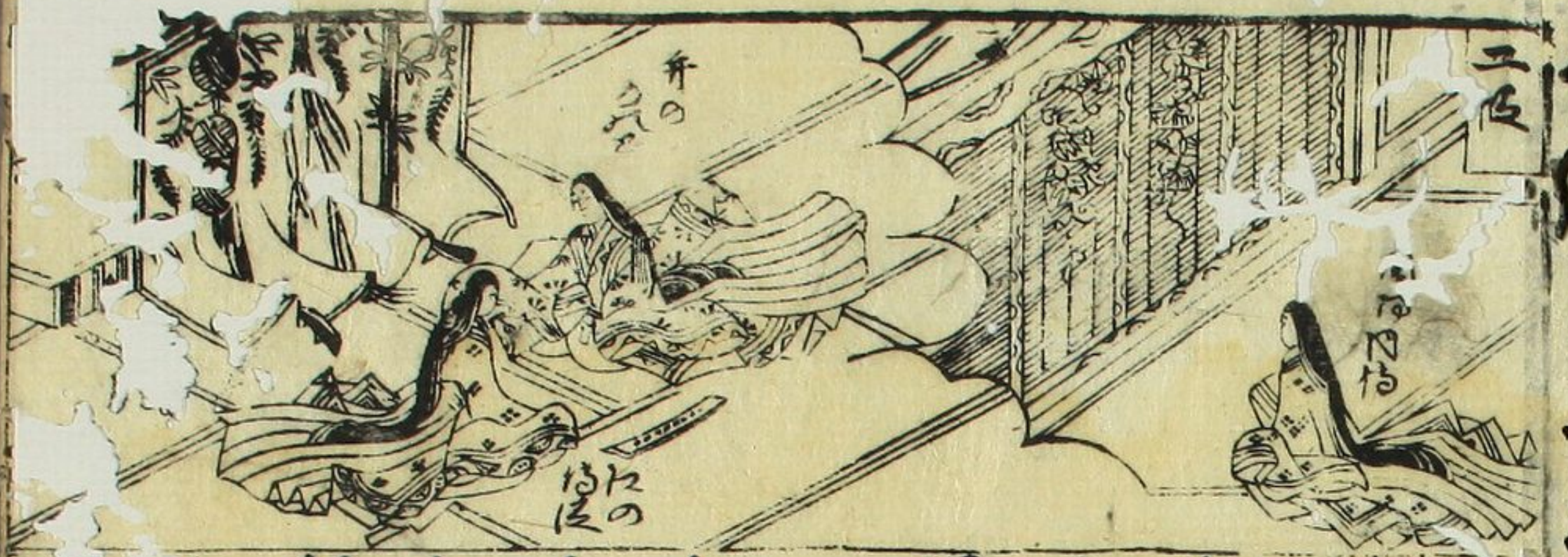


花とさうりよまはくかあまのさかかおのあは
 じりして月夜あひらたてあてきうゆあはら
 ぬきあはあつすは情あう。さたねうし海この標
 りのあやまうらなをこしそはあまのまは新乃
 おとあひあまもかよあうまうもあは。むかひの
 ちまらねとらあはらうまありてはうこてあまを
 みるもよみこころのふゆとまうこころの花はらう
 月のあつとあまふあひらうこころをねとあは
 かにあまあひら枝りの枝らりはなり。今なら
 しあひらあまあは。始終そあう。あま
 男女の情をいひよあまのあひらあまのあひら
 とも。あまあひらあまのあまのあまのあまのあま





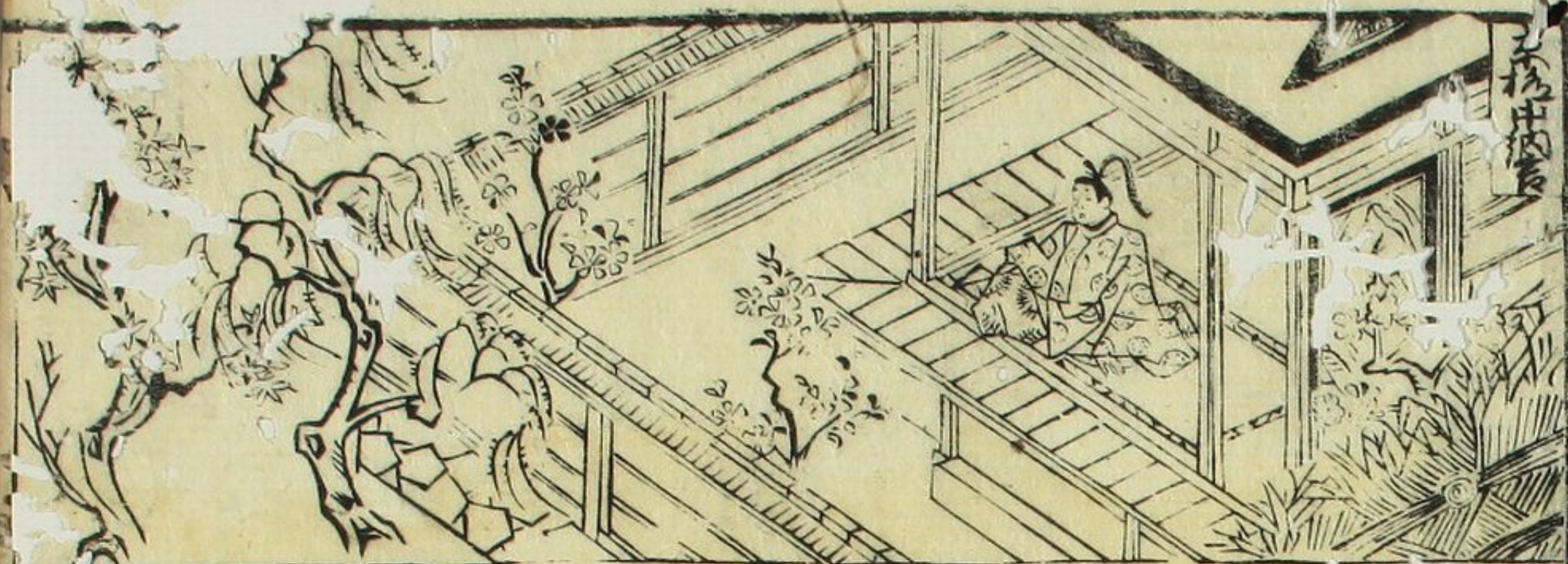
かねてはしるしをみせしむるに
 うらぬに死ぬとももよむに
 かる石魚使しとてしめしむるに
 まこととてしめしむるに
 らるる程にせしむるに
 かぞあてしむるに
 らるる程にせしむるに
 死よをよとてしめしむるに
 世とそしむるに
 是れとてしめしむるに
 世とそしむるに



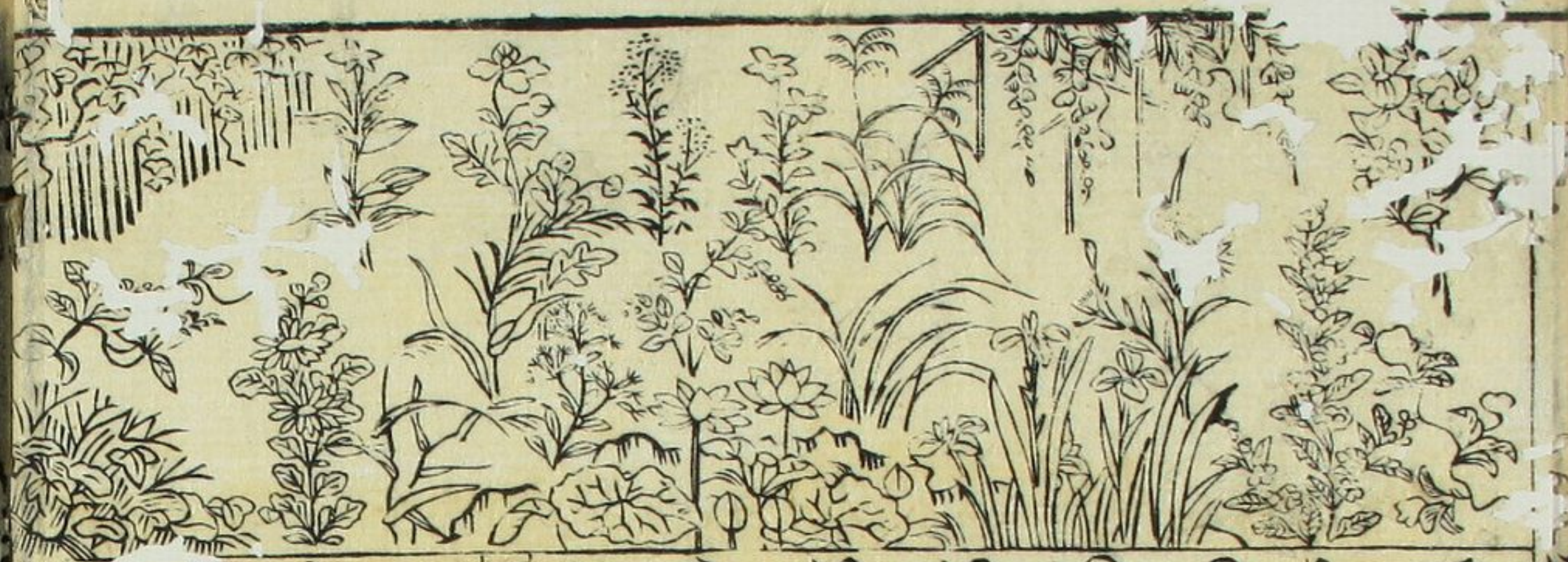
二五
 井の
 後の
 二六
 後の
 二七
 後の
 二八
 後の
 二九
 後の
 三〇
 後の
 三十一
 後の
 三十二
 後の
 三十三
 後の
 三十四
 後の
 三十五
 後の
 三十六
 後の
 三十七
 後の
 三十八
 後の
 三十九
 後の
 四十
 後の
 四十一
 後の
 四十二
 後の
 四十三
 後の
 四十四
 後の
 四十五
 後の
 四十六
 後の
 四十七
 後の
 四十八
 後の
 四十九
 後の
 五十
 後の
 五十一
 後の
 五十二
 後の
 五十三
 後の
 五十四
 後の
 五十五
 後の
 五十六
 後の
 五十七
 後の
 五十八
 後の
 五十九
 後の
 六十
 後の
 六十一
 後の
 六十二
 後の
 六十三
 後の
 六十四
 後の
 六十五
 後の
 六十六
 後の
 六十七
 後の
 六十八
 後の
 六十九
 後の
 七十
 後の
 七十一
 後の
 七十二
 後の
 七十三
 後の
 七十四
 後の
 七十五
 後の
 七十六
 後の
 七十七
 後の
 七十八
 後の
 七十九
 後の
 八十
 後の
 八十一
 後の
 八十二
 後の
 八十三
 後の
 八十四
 後の
 八十五
 後の
 八十六
 後の
 八十七
 後の
 八十八
 後の
 八十九
 後の
 九十
 後の
 九十一
 後の
 九十二
 後の
 九十三
 後の
 九十四
 後の
 九十五
 後の
 九十六
 後の
 九十七
 後の
 九十八
 後の
 九十九
 後の
 百
 後の



ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 かいつらりりとのいしづかかきふりくことさる九
 月九日菊まきりふらりことらばけうぶの菊れり
 までもあつるふちをえ指把宮太后宮うらひ
 後ゆかたに恨みうちまうぬくこと出まどのくれ
 かうをる然んそどりあつぬねとを然ぞうけつ
 と并れぬのよめいけつぬふあやめれ葉あり
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 三三
 家あつたたまの松ころ松のふききききききき
 ひとあつたきききききききききききききき
 けいろうそせいせきやう成けつあるお輝はれたを
 けいろうそせいせきやう成けつあるお輝はれたを



むまりいともあらたき事ちけりけりけりけり
 せんそせいせいせいせいせいせいせいせいせい
 うけつあつたききききききききききききき
 あきかききききききききききききききき
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事
 ありとくけりたもの事もあらたきもそわわらふ事



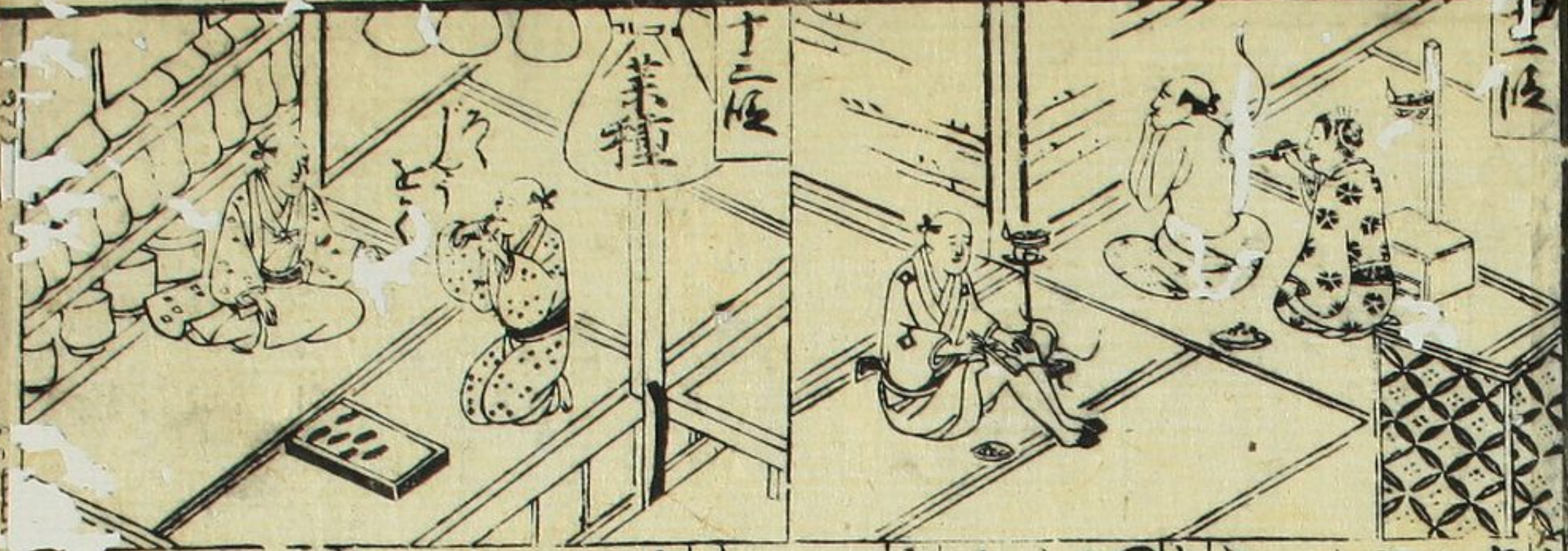
せいで一徳の運秋のあま秋高ふらうらうら
 とまふ下揃うらあま秋高ふらうらうら
 むんさうらうらあま秋高ふらうらうら
 いあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 けの世よまわらあま秋高ふらうら
 花もかたあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 色あつらうらあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 どのあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 羽衣とあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 ねあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 のかま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 とえあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら



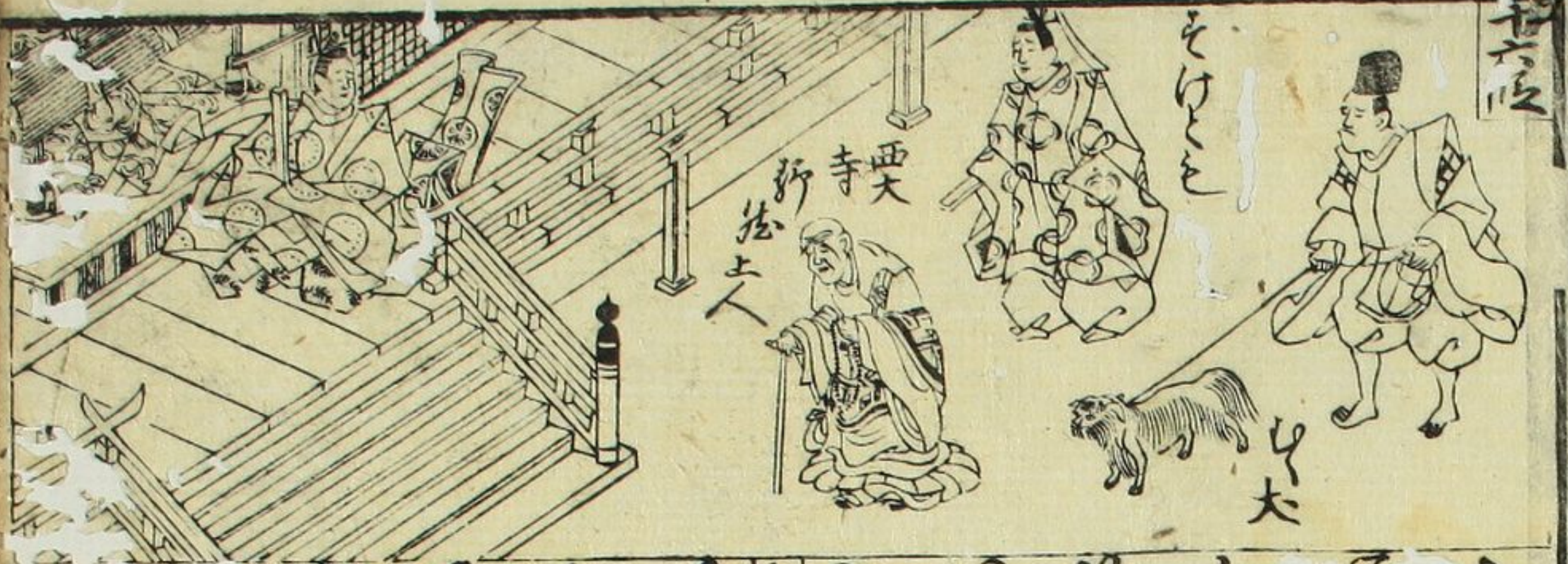
へあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 ちあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 らあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 五徳院の先蓮上人の信性三浦北あま秋高ふらうら
 さうあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 とあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 へあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 ちあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 らあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 五徳院の先蓮上人の信性三浦北あま秋高ふらうら
 さうあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 とあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 へあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 ちあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら
 らあま秋高ふらうらあま秋高ふらうら



のるあり終つていふありひたるをいふは
 かしらひたるよ信然るよりゆつて死ありた
 よ長ね二言神のよとていひたりある
 相とていひたれどもあて推しりあて淨
 のるありのよいひ相はあていひたり
 ああありたるよいひたり 野
 的雲座を相者よあひ給ふものよ一兵仗は
 やわるとる給たれ相人いふは相は
 とりある相とて相給たれは傷害の相とて
 一あまうははあていひたりあていひたり
 てあていひたれどもあていひたりあり
 ありありとていひたりありありあり



治あていひたれどもあていひたりありあり
 いふありありありありありありありあり
 えいありありありありありありありあり
 早いありありありありありありありあり
 上氣のありありありありありありありあり
 麻草と鼻よあていひたりありありありあり
 鼻よりいひたれどもあていひたりありあり
 結とほくとととととととととととととととと
 今あていひたれどもあていひたりありあり
 らんありありありありありありありありあり
 一人ありありありありありありありありあり
 なるありありありありありありありありあり



の色髪どつてもあつていゝやうな人かまじい人性その
 骨あつてもいゝやうな人かまじい人性その
 血をくらたは堪解つてもいゝやうな人かまじい人性その
 およその後よりいゝやうな人かまじい人性その
 りかみ残つてもいゝやうな人かまじい人性その
 不埒な事いゝやうな人かまじい人性その
 こそいゝやうな人かまじい人性その
 故持せよといふやうな人かまじい人性その
 事。諸君がうらむやうな人かまじい人性その
 十五位
 或のいゝやうな人かまじい人性その
 りんかきといふやうな人かまじい人性その
 志人のいゝやうな人かまじい人性その

わいゝやうな人かまじい人性その
 ころいゝやうな人かまじい人性その
 めつゝやうな人かまじい人性その
 ぢやいゝやうな人かまじい人性その
 ねめつゝやうな人かまじい人性その
 こといゝやうな人かまじい人性その
 十六位
 西大寺新法上人 勝がまじい人かまじい人性その
 ちいゝやうな人かまじい人性その
 周も西大寺教あつてもいゝやうな人かまじい人性その
 のいゝやうな人かまじい人性その
 ちいゝやうな人かまじい人性その
 ちいゝやうな人かまじい人性その



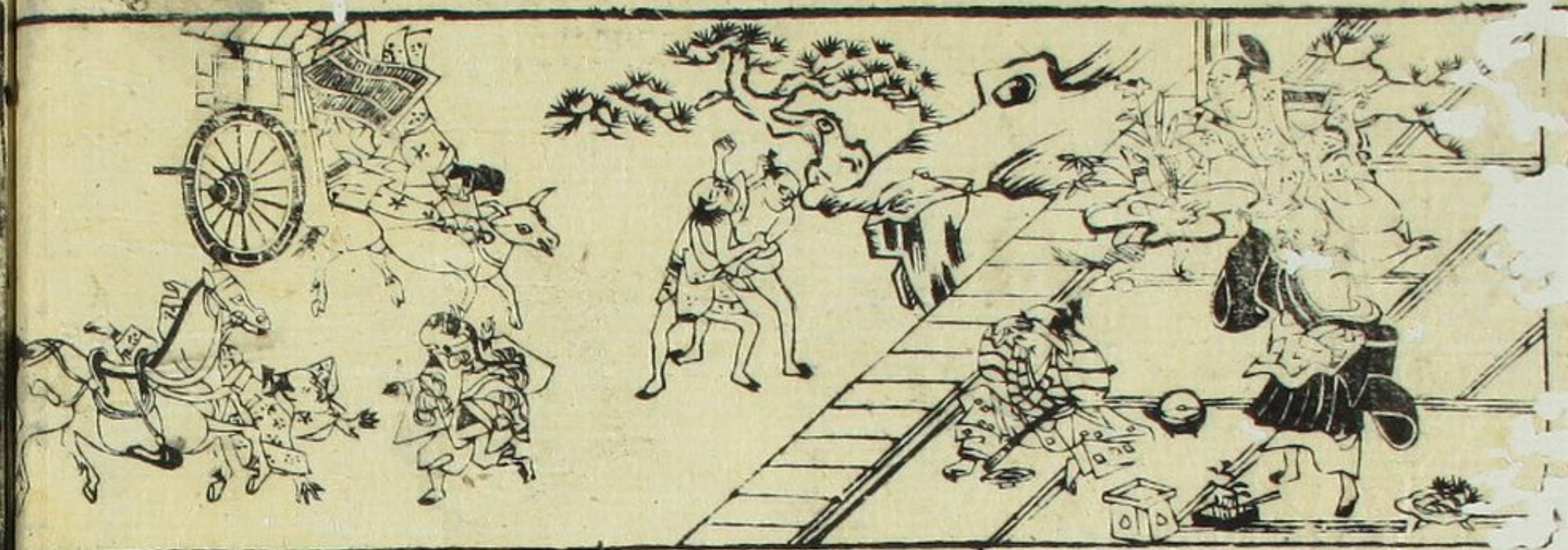
大衝の太

いふを去りて七年を過す。うたひの
 通照も乃孫は法師。池のちも目くらひつたて
 雲のうちまでえとあまをたぐひのあけられ
 の敷もあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 てあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 しとあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 村のあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 めもあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 ろもあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 らもあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 らもあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 らもあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 大衝の太大七字。此ういふはとある。法湯の

く。相福はゆきあり。のりらうるるるるるるる
 が自らのほのほのほのほのほのほのほのほのほ
 白敷よりあまをりあひのほのほのほのほのほ
サ八世の人あひのほのほのほのほのほのほのほのほ
 必やあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 世の浮世。人の気絶。自他のくあまをりあひのほ
 得もあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
サ九のありといふはとある。あまをりあひのほのほ
 わけまの人のあまをりあひのほのほのほのほのほ
 おゆきとあまをりあひのほのほのほのほのほのほ
 能家の僧とて我俗よあまをりあひのほのほのほ
 があまをりあひのほのほのほのほのほのほ



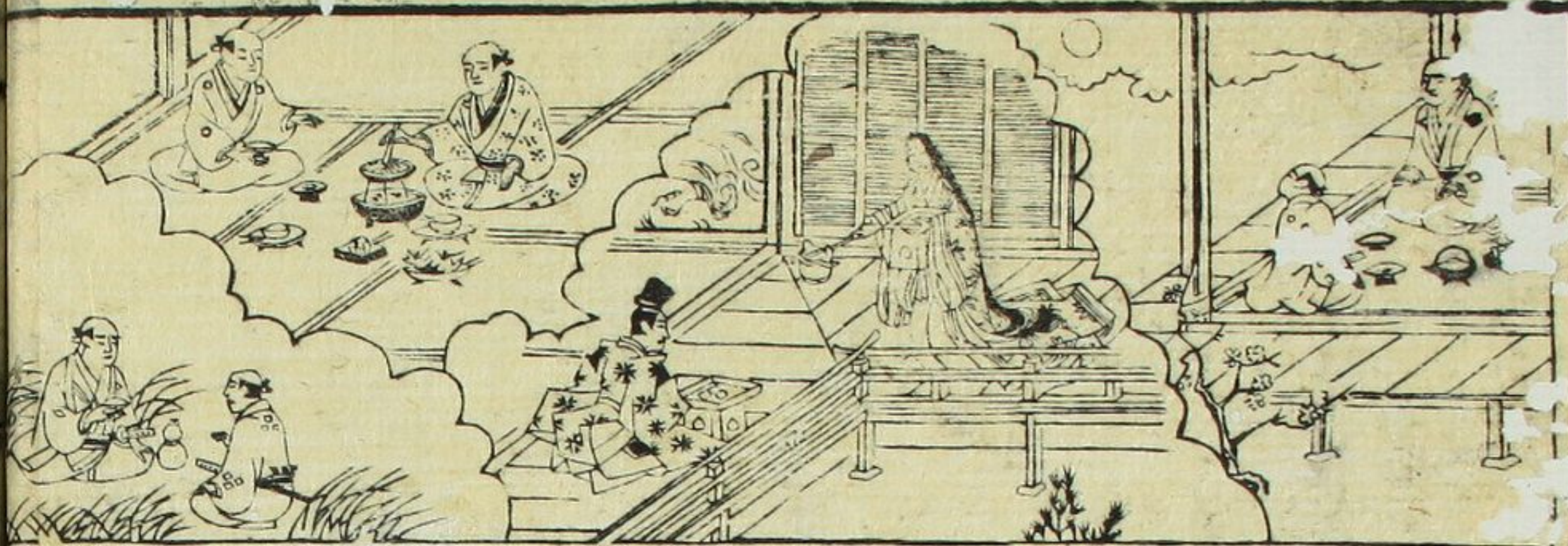
廿一
 廿二
 廿三
 廿四
 廿五
 廿六
 廿七
 廿八
 廿九
 三十



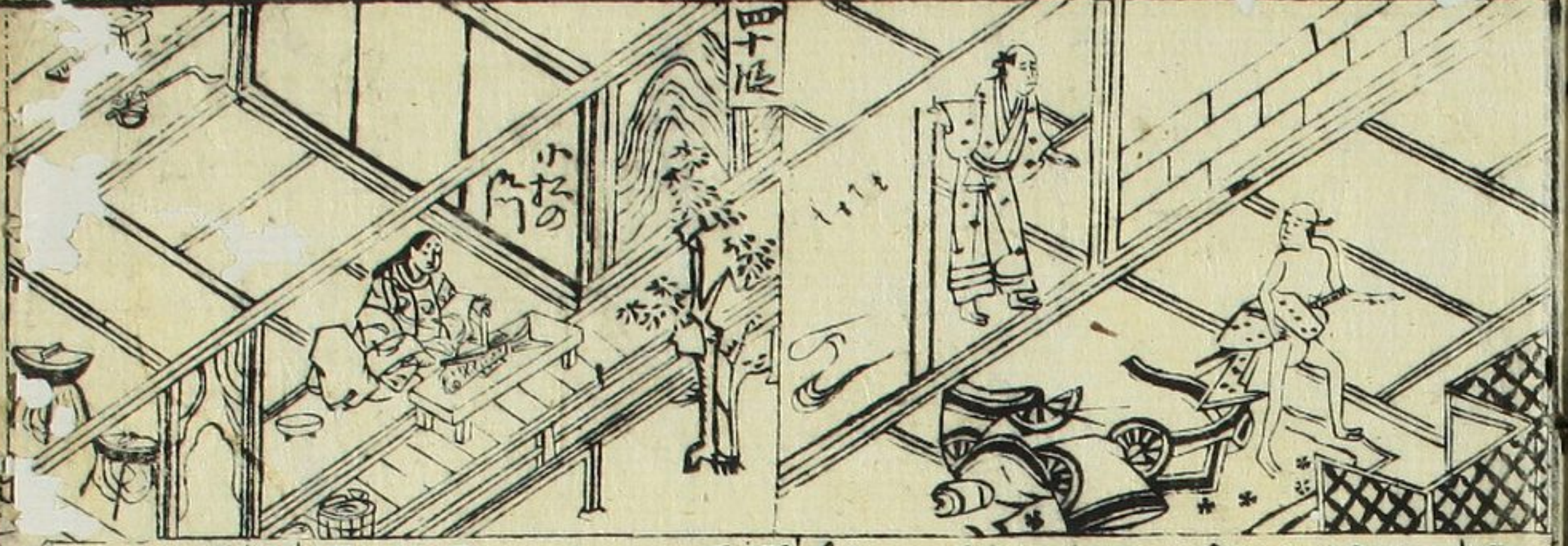
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども



おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども
おんかゝらぬまゝにしてはよしとていふ事なれども
あさぬわしをさうりかへる事なれども

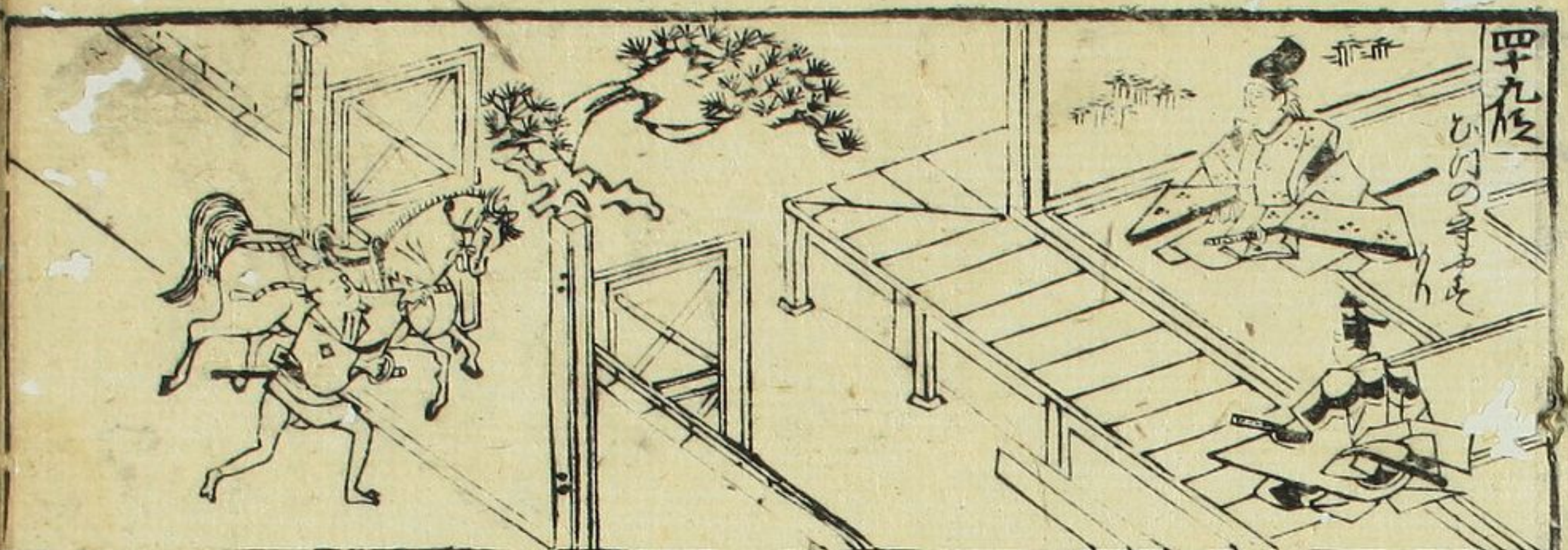


Handwritten Japanese text in a cursive style, likely a continuation of a narrative or a letter. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It contains various characters, including kanji and hiragana, and some smaller annotations.

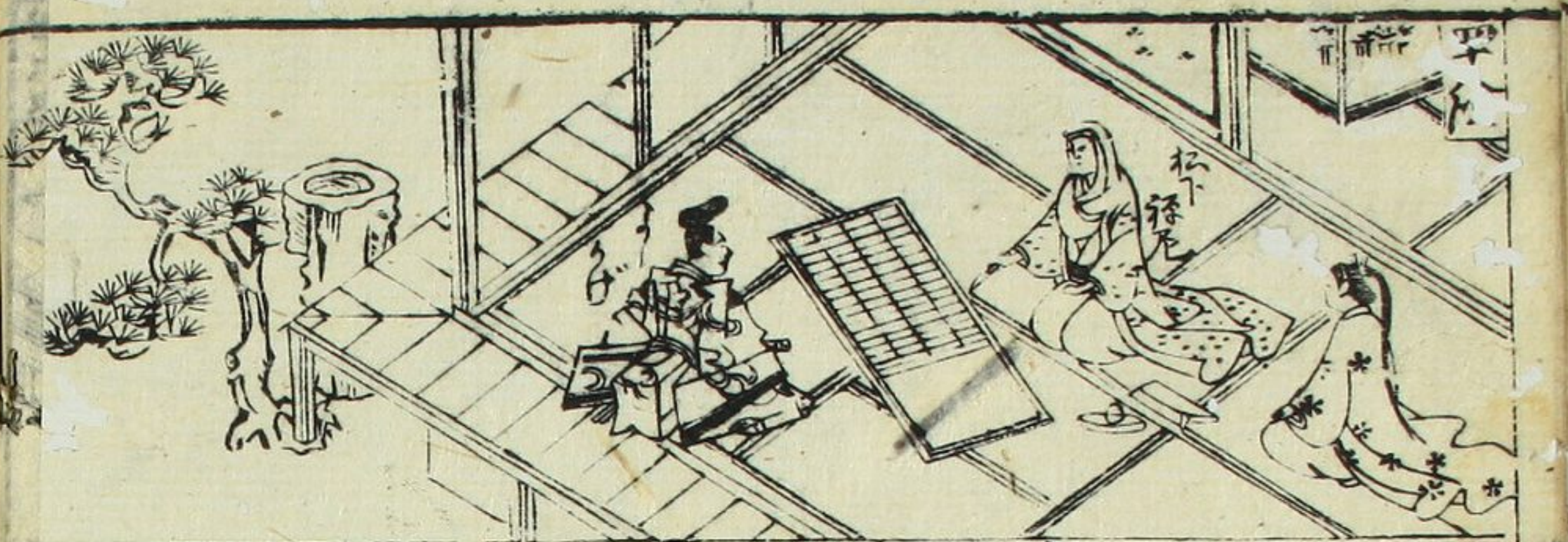


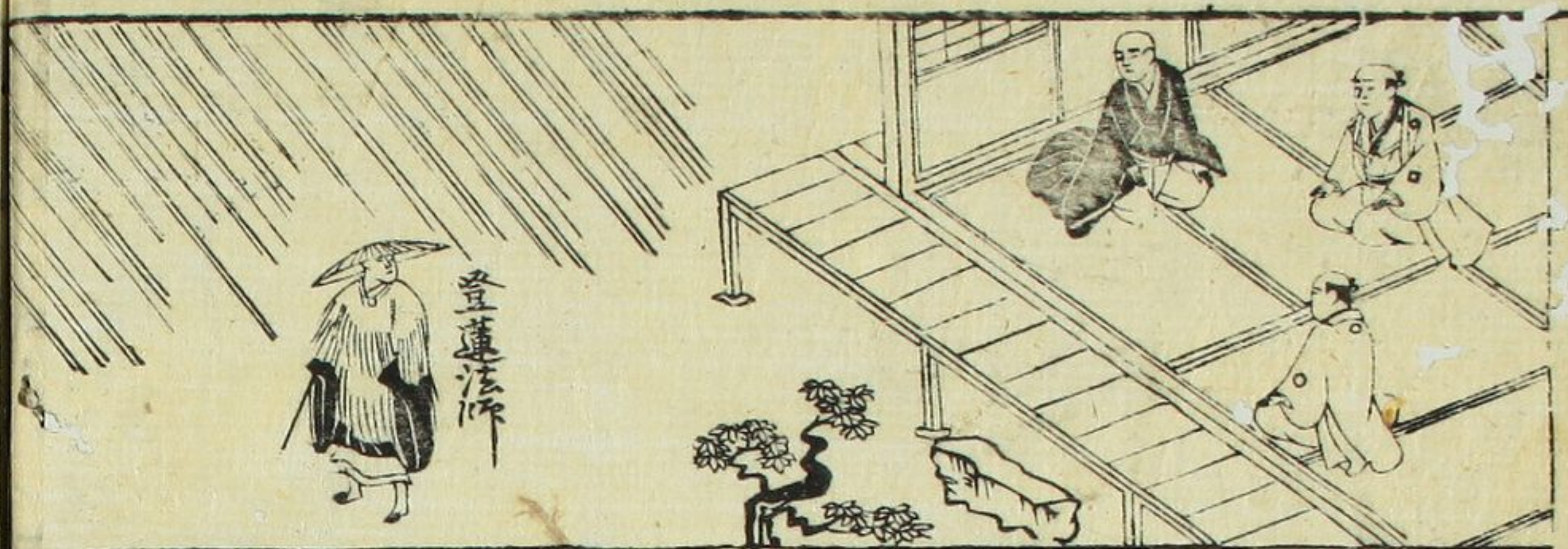
Handwritten Japanese text in a cursive style, similar to the right page. It includes vertical columns of text with some boxed-in sections. A small box on the left side contains the number '四十一' (41). The text appears to be a continuation of the narrative or a separate section related to the same theme.

甲九段
 五十四段
 五十五段
 五十六段
 五十七段
 五十八段
 五十九段
 六十段
 六十一段
 六十二段
 六十三段
 六十四段
 六十五段
 六十六段
 六十七段
 六十八段
 六十九段
 七十段
 七十一段
 七十二段
 七十三段
 七十四段
 七十五段
 七十六段
 七十七段
 七十八段
 七十九段
 八十段
 八十一段
 八十二段
 八十三段
 八十四段
 八十五段
 八十六段
 八十七段
 八十八段
 八十九段
 九十段
 九十一段
 九十二段
 九十三段
 九十四段
 九十五段
 九十六段
 九十七段
 九十八段
 九十九段
 一百段

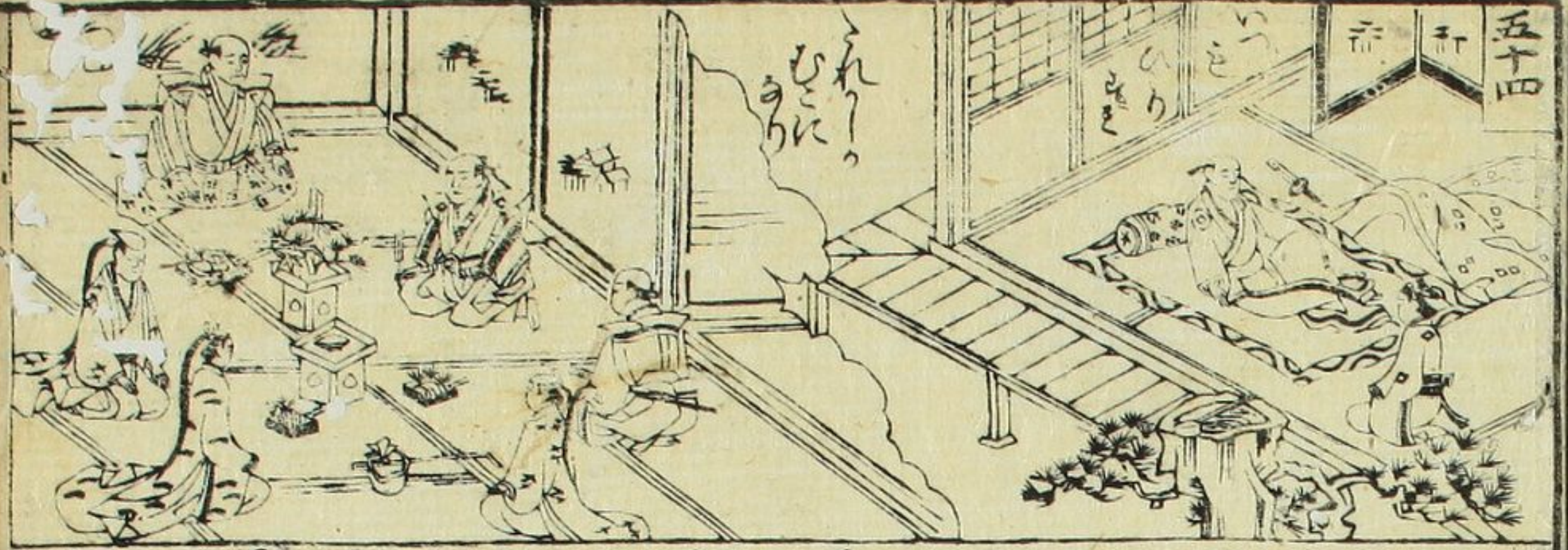


甲九段
 五十四段
 五十五段
 五十六段
 五十七段
 五十八段
 五十九段
 六十段
 六十一段
 六十二段
 六十三段
 六十四段
 六十五段
 六十六段
 六十七段
 六十八段
 六十九段
 七十段
 七十一段
 七十二段
 七十三段
 七十四段
 七十五段
 七十六段
 七十七段
 七十八段
 七十九段
 八十段
 八十一段
 八十二段
 八十三段
 八十四段
 八十五段
 八十六段
 八十七段
 八十八段
 八十九段
 九十段
 九十一段
 九十二段
 九十三段
 九十四段
 九十五段
 九十六段
 九十七段
 九十八段
 九十九段
 一百段

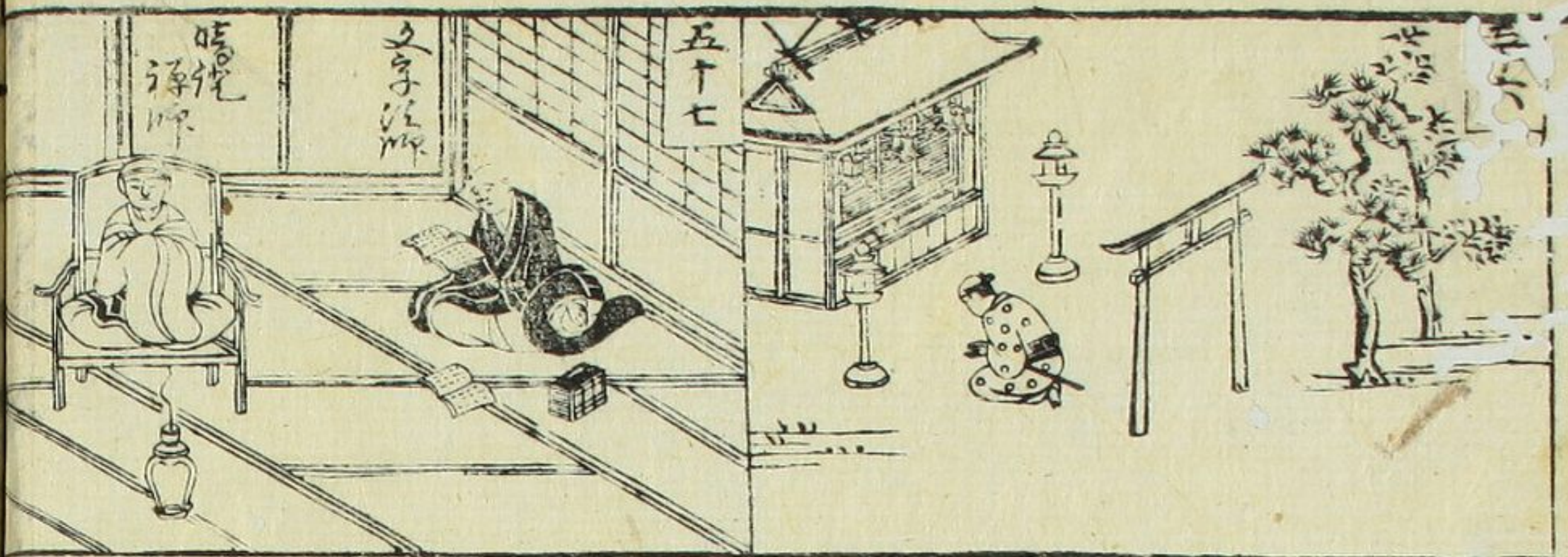




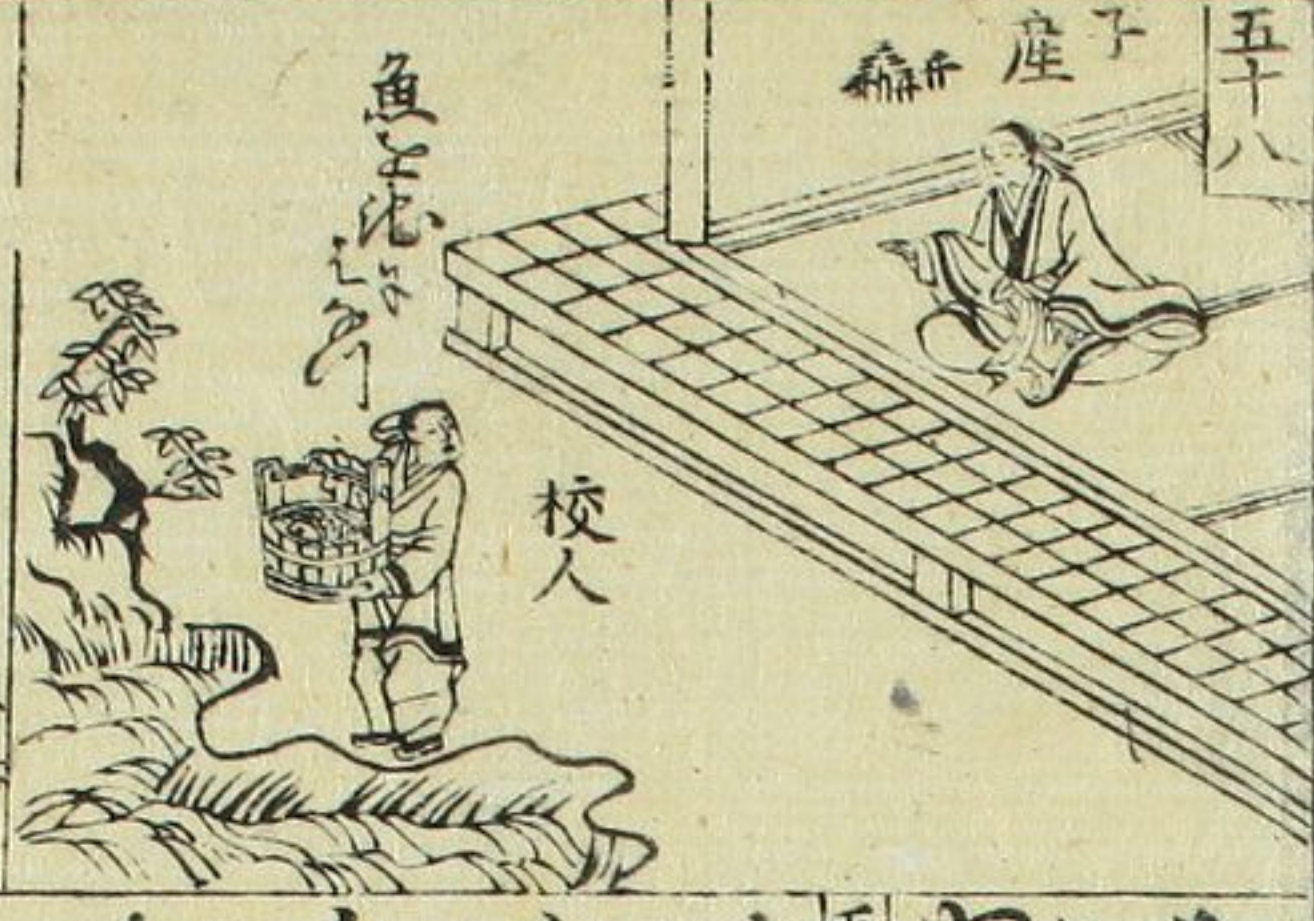
事あるは... 登蓮法師... 今... 論...



五十四... 今... 論...



うらなひぬいぢりしりもあはれあひいひらりて
 りのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 ねまかたよまのりつて鏡さつてうらなひはく
 りひくわらへたうへに
 五十六 神物もさのりまのりもあはれあひいひらりて
 五十七 うらなひぬいぢりしりもあはれあひいひらりて
 りのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 万のりぬいぢりしりもあはれあひいひらりて
 どのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 あるまかりまのりもあはれあひいひらりて



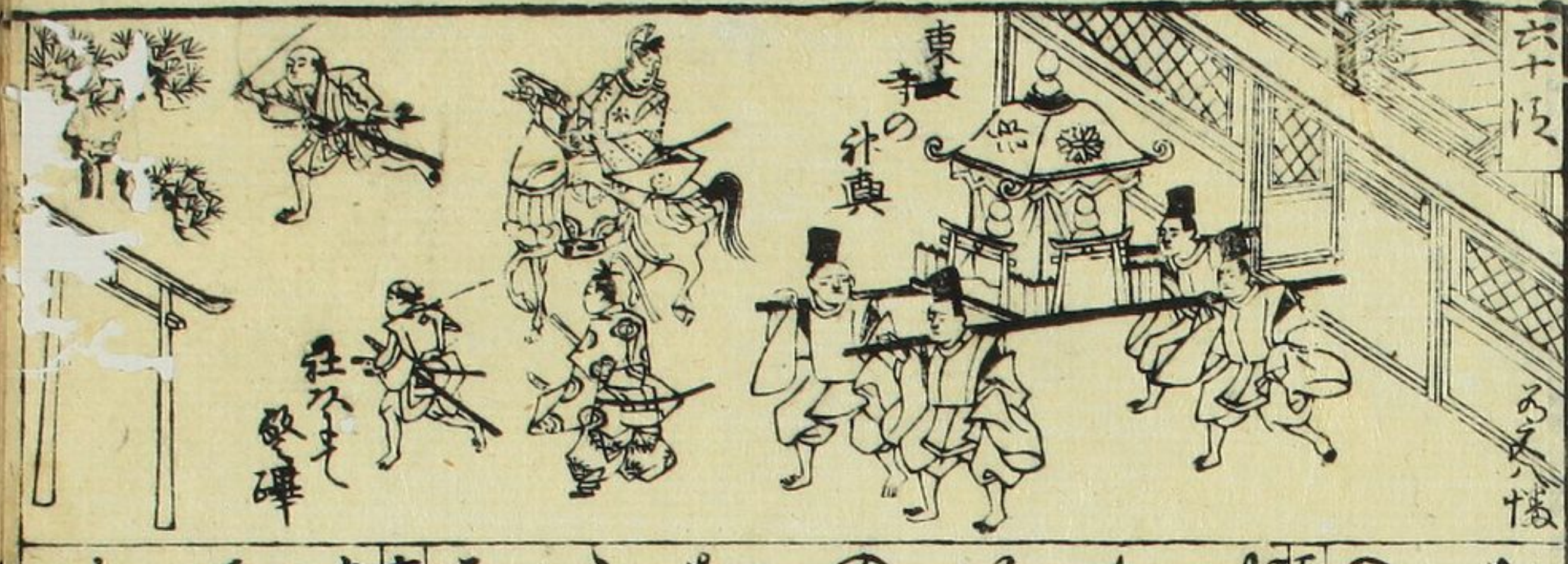
五十八 座子の
 校人の
 魚子泣く
 をのりまのりもあはれあひいひらりて
 累のあはれあひいひらりて
 達人のあはれあひいひらりて
 りのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 命のあはれあひいひらりて
 まのりまのりもあはれあひいひらりて
 ねまかたよまのりつて鏡さつてうらなひはく



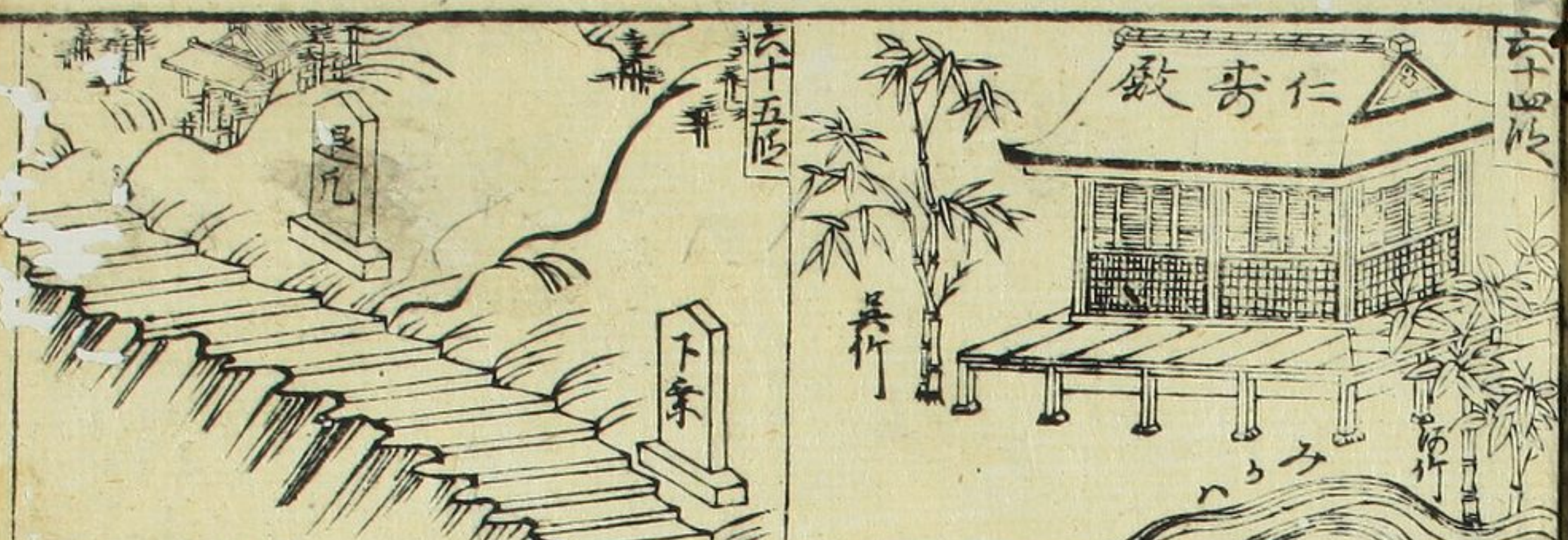
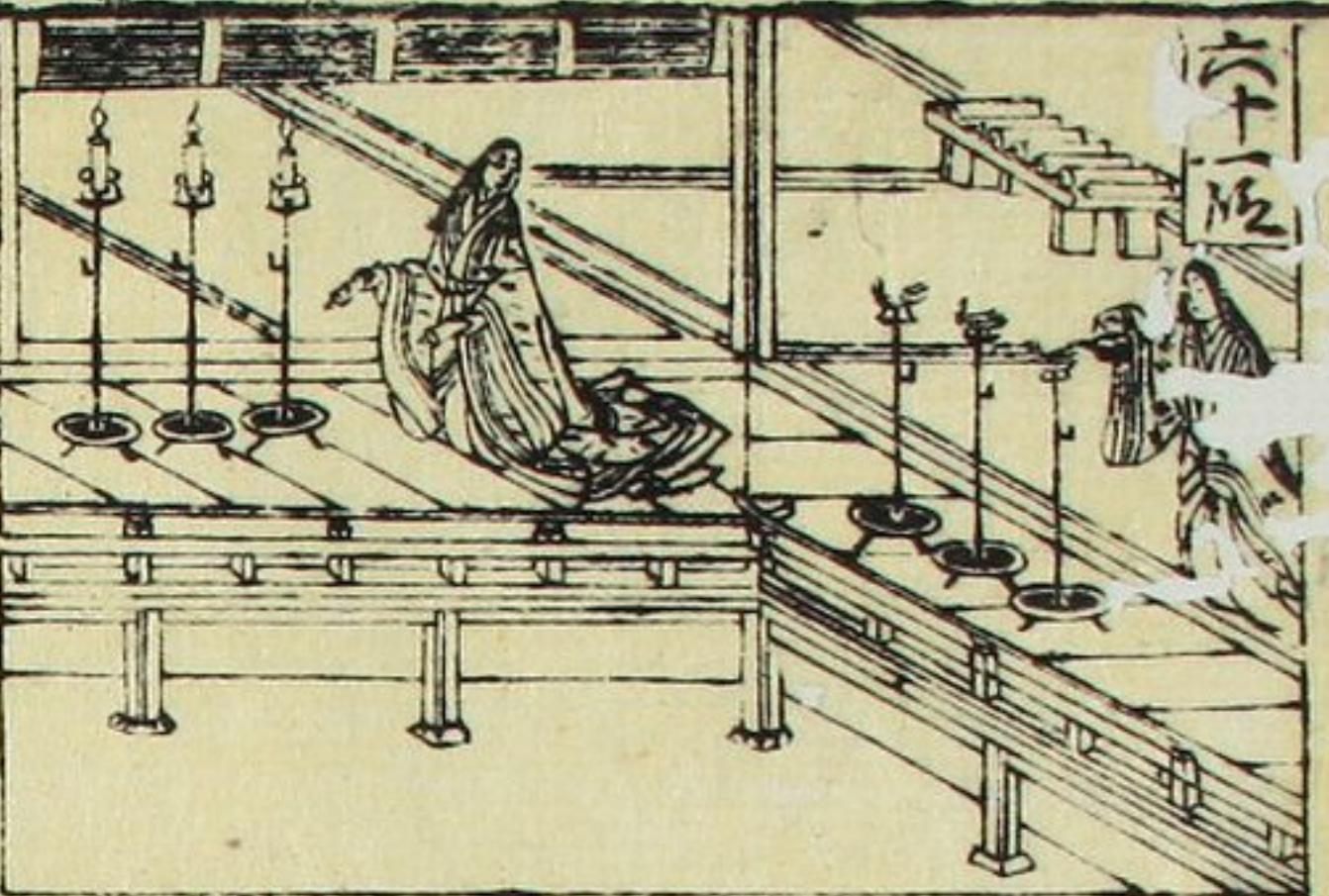
五十九 酒後の
 狐疑の
 大のりまのりもあはれあひいひらりて
 うらなひぬいぢりしりもあはれあひいひらりて
 りのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 万のりぬいぢりしりもあはれあひいひらりて
 どのまかりまのりもあはれあひいひらりて
 あるまかりまのりもあはれあひいひらりて



うあつらわいあてなわらばけくちるぬあ
 又推しあてわらわらあひあひあうあうあ
 まりもそのあまもあまあまあまあま
 色あうあまあまあまあまあまあまあま
 しかあまあまあまあまあまあまあまあま
 るあまあまあまあまあまあまあまあま
 言わあまあまあまあまあまあまあまあま
 どあまあまあまあまあまあまあまあま
 するあまあまあまあまあまあまあまあま
 よあまあまあまあまあまあまあまあま
 くあまあまあまあまあまあまあまあま
 まあまあまあまあまあまあまあまあま



おりぬりあまのうらまうりそいあまあま
 つあまあまあまあまあまあまあまあま
 或人久我繩あまのあまあまあまあまあま
 人あまあまあまあまあまあまあまあま
 神人あまあまあまあまあまあまあまあま
 の男二三あまあまあまあまあまあまあま
 とあまあまあまあまあまあまあまあま
 よあまあまあまあまあまあまあまあま
 さ人あまあまあまあまあまあまあまあま
六十東大寺の御興みきよあまあまあまあまあま
 源氏の公みまろあまあまあまあまあまあま
 せあまあまあまあまあまあまあまあま

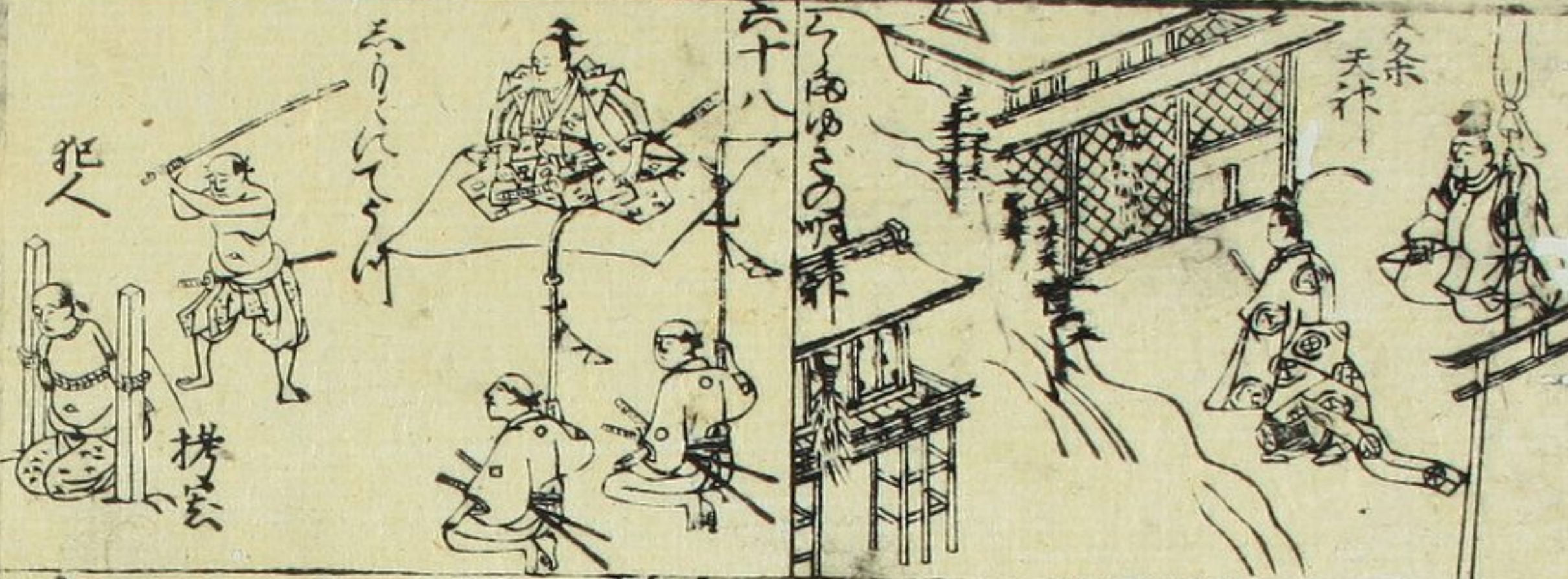


仁壽殿

らるるをえたるも、
おまごつりありあつたり
お山抄とせん之西
所れ悪鬼悪神と
とあつたりありと
徳もの傳りあり
延結式ありあり
号ありあり

揚名女よりと
政事要略あり
横川乃行宣法中
ありありありあり
是行の事あり
亦仁壽殿の方
近江下条に
凡あり

十月と神無月
ありありありあり
はまりはありあり
事ありありあり
かし十月徳社
勅勤のありあり
ま上の御機



天条の事どもあはれは、執るは海軍の事といふ
 之類のけりれりたる、祿之看修の肩つるもの
 とその事どもあはれは、執るは海軍の事といふ
 後今世の封鎖は、くるとありけり
 犯人ともあはれは、くるとありけり
 たる、携るは、色よする、他法も、今うたまた
 志するは、あはれは、くるとありけり
 比叡の、大帥、切信の、起信といふ、事どもあはれは、
 事どもあはれは、くるとありけり、起信といふ、事どもあはれは、
 その事どもあはれは、くるとありけり、起信といふ、事どもあはれは、
 ことどもあはれは、くるとありけり、起信といふ、事どもあはれは、
 法令の、れは、くるとありけり、起信といふ、事どもあはれは、



徳大寺右大臣殿、檢非違使の、別當の時、中門に、
 使座の、評定かこもり、事どもあはれは、くるとありけり、
 牛どもあはれは、くるとありけり、事どもあはれは、くるとありけり、
 うまの、りて、よれ、りて、事どもあはれは、くるとありけり、
 吳の、りて、牛と、法陽、師の、りて、事どもあはれは、くるとありけり、
 ありと、父の、相、成、法、結、牛に、多、判、あり、事どもあはれは、くるとありけり、
 け、く、り、の、り、て、事どもあはれは、くるとありけり、
 牛どもあはれは、くるとありけり、事どもあはれは、くるとありけり、
 ありと、事どもあはれは、くるとありけり、事どもあはれは、くるとありけり、
 や、り、り、の、り、て、事どもあはれは、くるとありけり、
 龜山、殿、あり、事どもあはれは、くるとありけり、



たきこころのさるむのこし。あるま言書は中
よらうたのちみかの時招意の法どばおこりあか
わりのちの懸あつ。新葉集の巻并は後
あづまの目のかどけげり。新葉集も葉の
つたてのめよあひしむい種

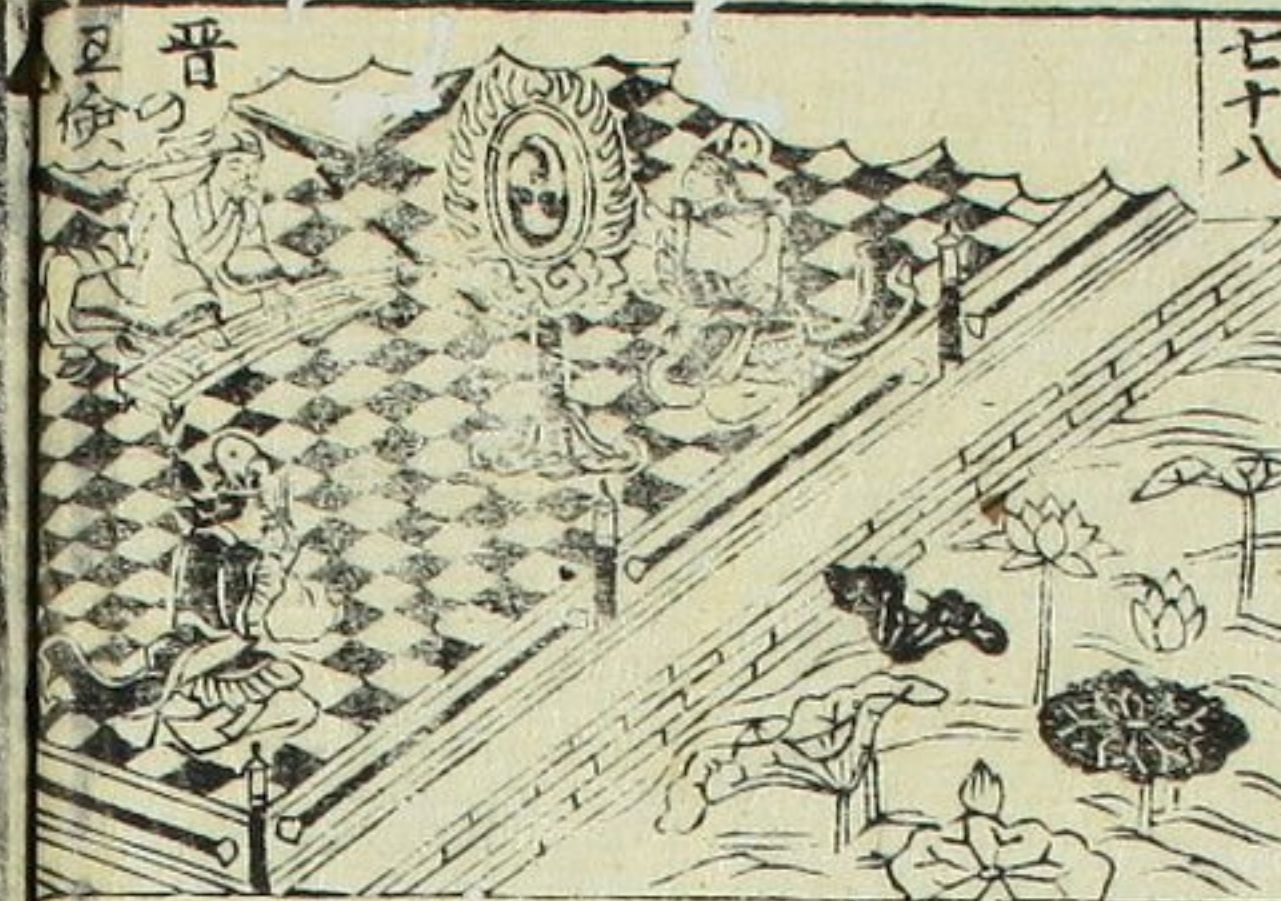
新のよられじぐらむおらううのねくも
よのじやううらむらむらむらひひ
ぬのじぐらむらむらむらむらむらむら
たのじぐらむらむらむらむらむらむら
れむらむらむらむらむらむらむらむら
突じぐらむらむらむらむらむらむら
そのせから珠どうらむらむらむらむらむら

ぐらむらむらむらむらむらむらむらむら
志のむらむらむらむらむらむらむらむら
信のむらむらむらむらむらむらむらむら
是のむらむらむらむらむらむらむらむら
もむらむらむらむらむらむらむらむら
わむらむらむらむらむらむらむらむら
もむらむらむらむらむらむらむらむら
地のむらむらむらむらむらむらむらむら
てのむらむらむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむらむらむら

七十六
秋の月ころりあめで、秋の月ころりあめで



かこそのわ... ぬまの... ぬまの...



ぬまの... ぬまの... ぬまの...



ぬまの... ぬまの... ぬまの...

ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの... ぬまの...



下巻

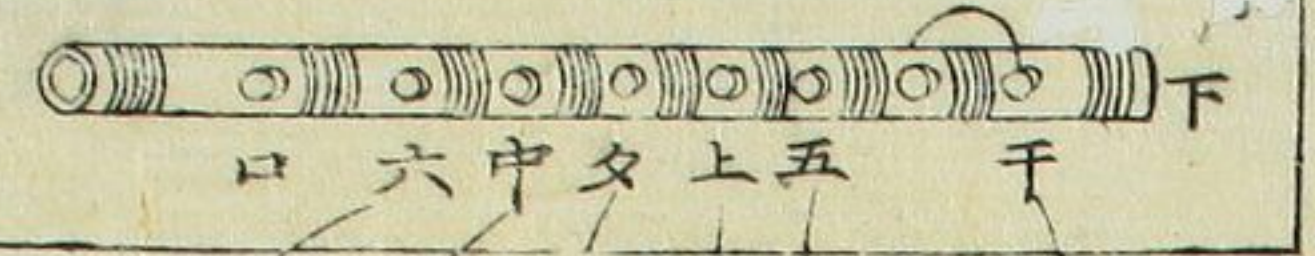
九五

ぬるわね棚よみ志あるのゆはなるともか
 ていさそ表えくさあらぬとすくわきりつ
 こへくぬ教誨よ及びて真のついでつり
 世よかくしそゆるりとすまれり野末
 究めちたる落る思乃社来れ次よ足利をふ
 のゆ先使とはつりごとくまじりありあり
 いまふもつれりける指一秋よりあつた二秋
 よあひ二秋よつりありあもそぬと座あま
 夫婦澄舟倍あつたがあ人のく座あつた
 りそそぬとふだる屋敷の深物ふりあつた
 しよんかぬは明きしああらぬそわくは深
 干あゆへ女房ごまは小袖よせとせよ
 しまるるもなりそめみる人れりくせよ

ながりゆきあり
 おろ大福長者のいしくなりけり
 ひこるよ徳とほくはもつていもある
 けとあるのよと人といは徳とほくと
 く先をほけりひと修約とてそんは他
 おとあはくと人同常候はつひは信と
 と無常と観とむるこなるは是れ一の
 他よあそ前報をあり欲はして志を
 ちる百方の後ありといふもあつたは
 かりとあつたはつりきりて



横笛穴名圖



平調 勝絶調
下無調 雙調
息撞調 黄撞調
音燒調 盤波調
神仙調 上五調

平調 正月 勝絶調 二月
下五調 三月 雙調 四月
息撞調 五月 黄撞調 六月
音燒調 七月 盤波調 八月
神仙調 九月 上無調 十月
上五調 十一月 所上調 十二月

下は神も狐三越くるてくひつるんかかどぬ
とて是とあまぐわひの統一定とてくひとつら
らぬぬ六中ねは神のあましあつらぬあぐ
と接あつらりあり

日奈美門命さうまていらく龍杖のたより
てい人ともあ者ありは自ありていらく龍杖
れいり。さあて荒凍のるるれども横笛のあ
り穴の神いさうさあのゆるかどひそつと是とあ
そあ平穴穴の卒洞の穴下無調とさる小勝
級洞とるさそあり上の穴双調次は名也流洞と
をさてか穴黄流洞あり。そ次は音燒調と並
て申れ穴盤波洞中ととのありひは神仙調あり。

あまはるるい皆二徳とぬとあるふ穴穴の下の
るは調とともさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
とたの必のくれああね何れああつとぬさうと
かかこさうとさうとさうとさうとさうとさうと
後生とあさるといさうとさうとさうとさうとさうと
家流ぐりやうの空のあつとさうとさうとさうと
ぬくむりりあり。後いさうとさうとさうとさうと
くひさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
骨とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
ひとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
りもさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと



天土寺六時きれあるる



あまのいも... 八十二

かめく... 八十二

八十五... 八十二

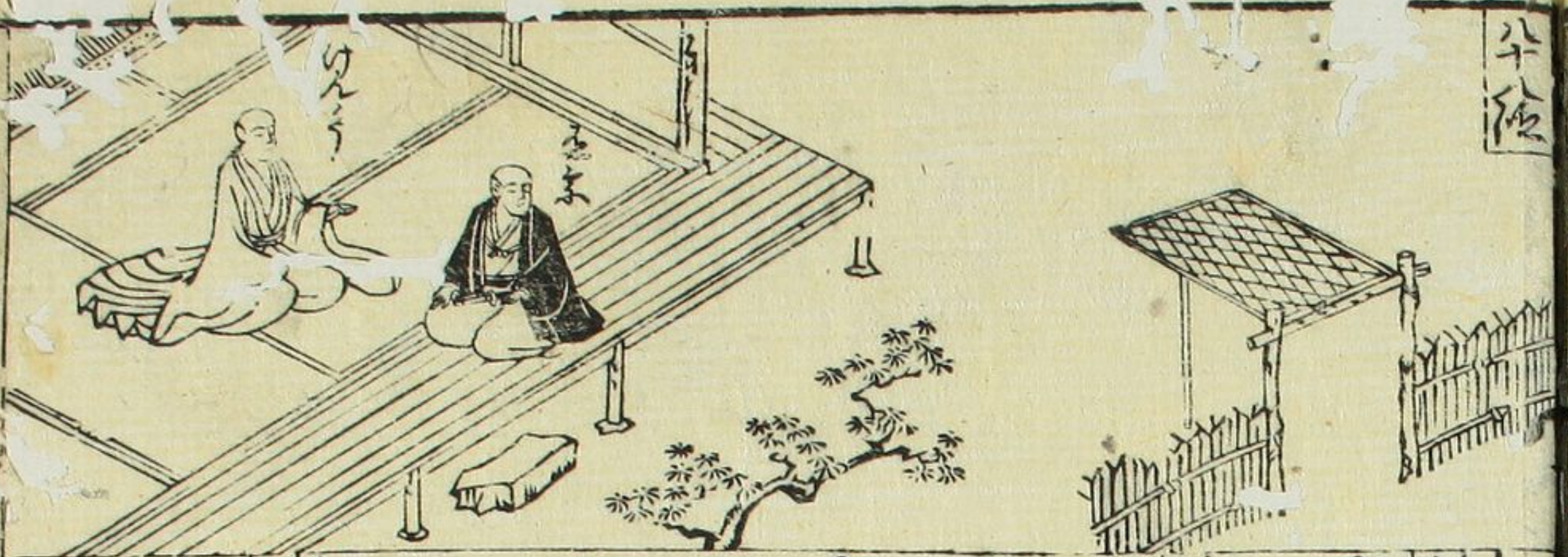
八十五... 八十二



八十二

とたつてのしきたりもせめてもつたか
 ことどもりてまじくせんじつにせむし
 竹谷宗茂房。在立派院へあつたけりけるよ七者
 の道善より行ひけり。徳利ありとてむせむか
 先の善言を説き。中流難尼とてしるけり。と
 中子とて。かふかか。りけり。念仏よほさ
 とて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 我家をいへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。
 し。徳利とて。徳利とて。徳利とて。徳利とて。
 徳利とて。徳利とて。徳利とて。徳利とて。
 とつて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 とつて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

八十一



とつて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 八十七
 寺のり。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 徳陽師。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 とつて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 きる。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 かと。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 又。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 色。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 年。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 八十九
 多。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 あり。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

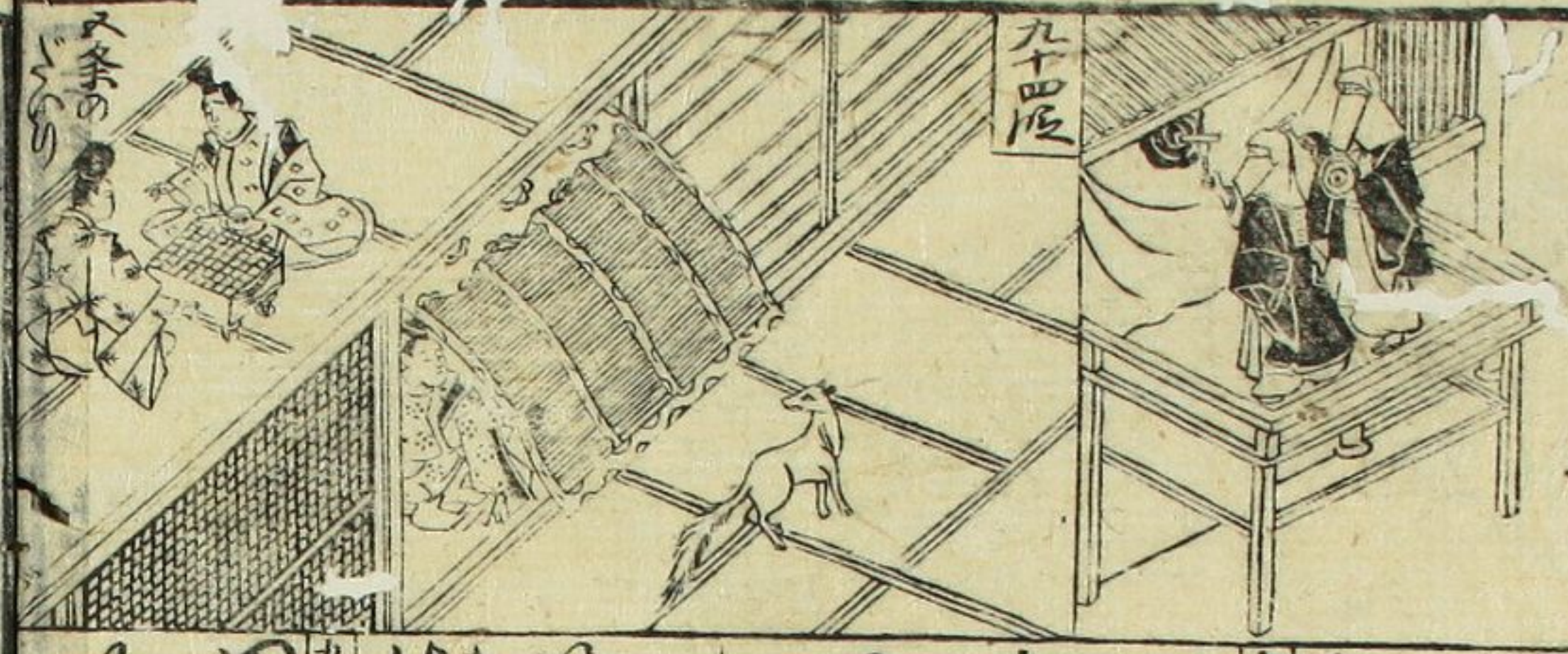


女よ教へしものせたりと云ふるは千代にさう中の此法
 とせ鳥習ひとひさしめりたれ男類と云
 ひひちる様仰りしとあるはさうひひちるは
 はかりは白柏子の根元より後継の本意と
 うるは後継先行おやめりしと云ふるは後鳥羽院
 此能もあつたよと云ふはさうと云
 九十一
 後鳥羽院の内時信濃系司行長持古の御代
 ありあり衆存の論議の事よのこして七世
 此衆と云ふるはさうと云ふは徳冠と云ふは
 さうと云ふるはさうと云ふはさうと云ふは
 世一りけるはさうと云ふはさうと云ふは
 是もめしと云ふはさうと云ふはさうと云ふは



九十二
 持持し給たりは約長なる事あはれと云ふはさうと云ふは
 松とひる首月と云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 のさうと云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 ころと云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 らと云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 さまのさうと云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 向と云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 九十三
 六時礼讃の法然上人の身子衆衆といひたるは
 經文と云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 たる衆衆衆衆と云ふはさうと云ふはさうと云ふは
 なるなり。感念念の衆衆衆衆の衆衆衆衆の衆衆

子育会伝

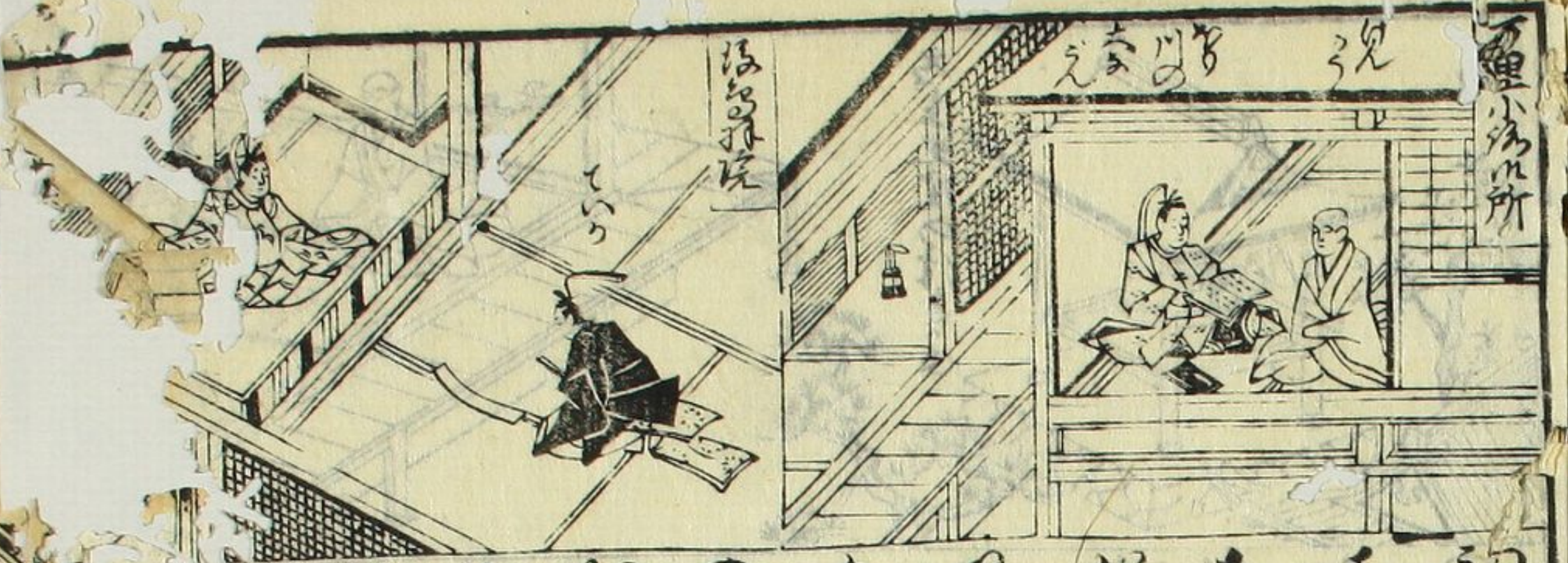


より始まる法事候も何れも始まる也
九十二
子育の祝迎念仏の文解比如論上人始らばなり
九十三
此細く少くもさし力せしりまといふ妙訣有り
わいてくもは

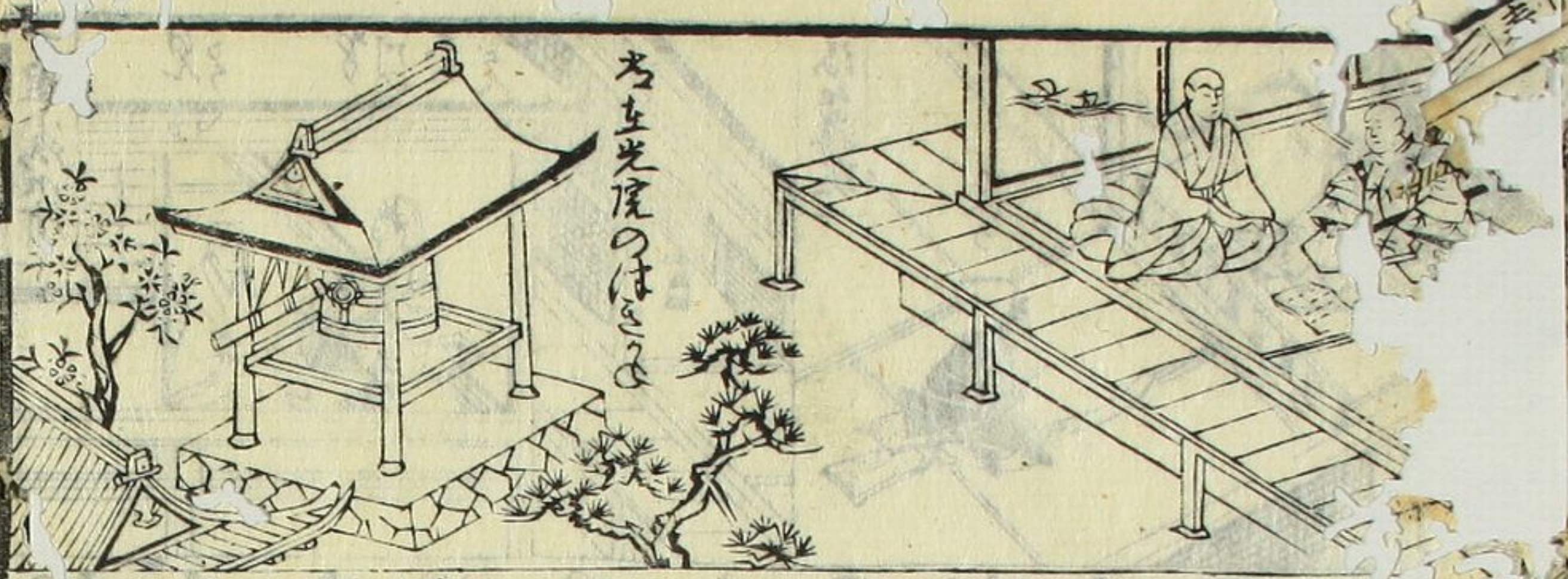


九十四
み衆同裏よのともおのりたり藤大納言殿か
たらま侍殿上人とこそ思召して暮さうらな
あよみとさうおとらんものいほそとんじふ
しきお流人のものいほおてうのぞたうら
れまうひもさしおほおとひのいほおり
練の籠とげせんたるま
九十五
園の別名今たうらとて庵丁者ありあるか
作してしとて難いといふは

九十五
入りの庵丁とていふは
くことおとらひかる夜別名今たうらとて
百日の解とていふは
どもあてとらうとていふは
とていふは
大政令あてとらうとていふは
よのまのいほおとらうとていふは
くことおとらひかる夜別名今たうらとて
目の解とていふは
とていふは
あつとらうとていふは
あつとらうとていふは



此の世にあり自ら七ヶ条を定めしむる
 事ありて自徳のむすべし
 人のまはれしむるはむすべし
 馬とてはむすべし
 見給ふはむすべし
 てもむすべし
 其徳のむすべし
 當代はむすべし
 ありてはむすべし
 用ありてはむすべし
 むすべし
 らむすべし
 わりてはむすべし
 然らむすべし
 めむすべし
 りむすべし
 のむすべし
 かのむすべし
 此のむすべし
 秋のむすべし
 此のむすべし

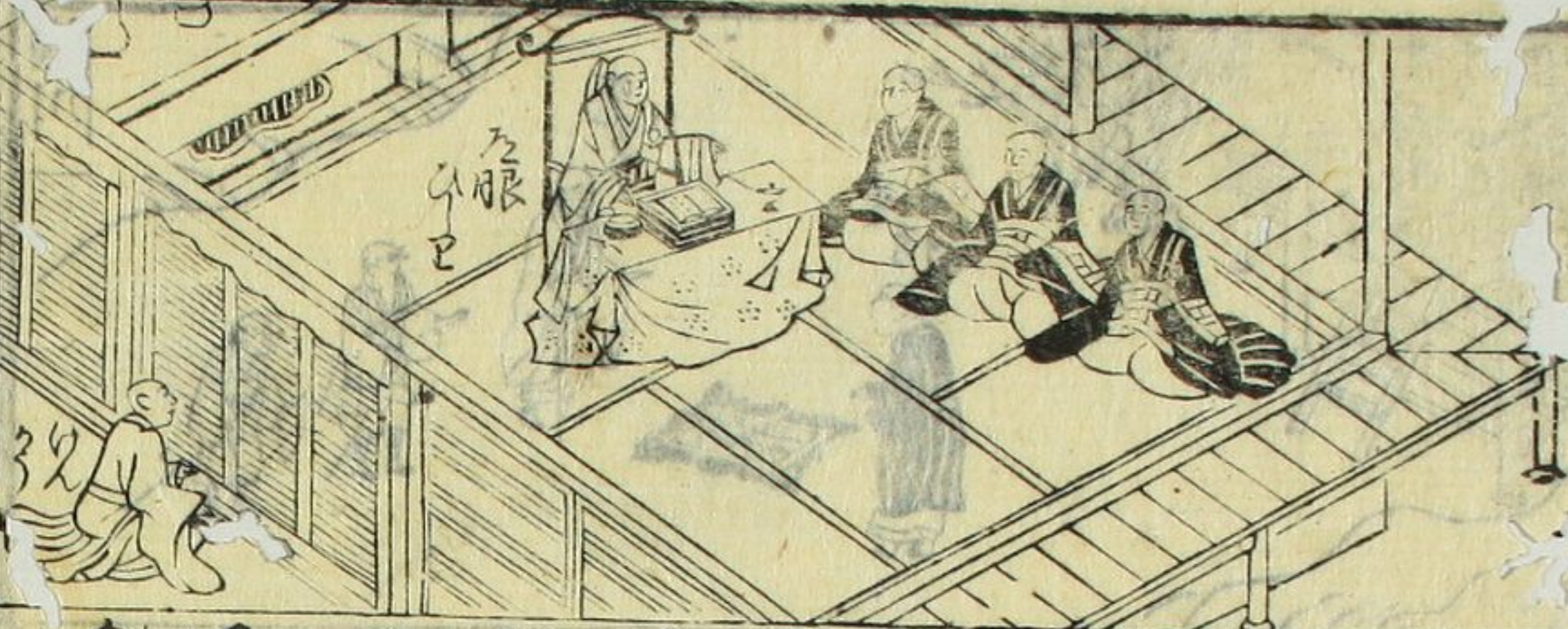
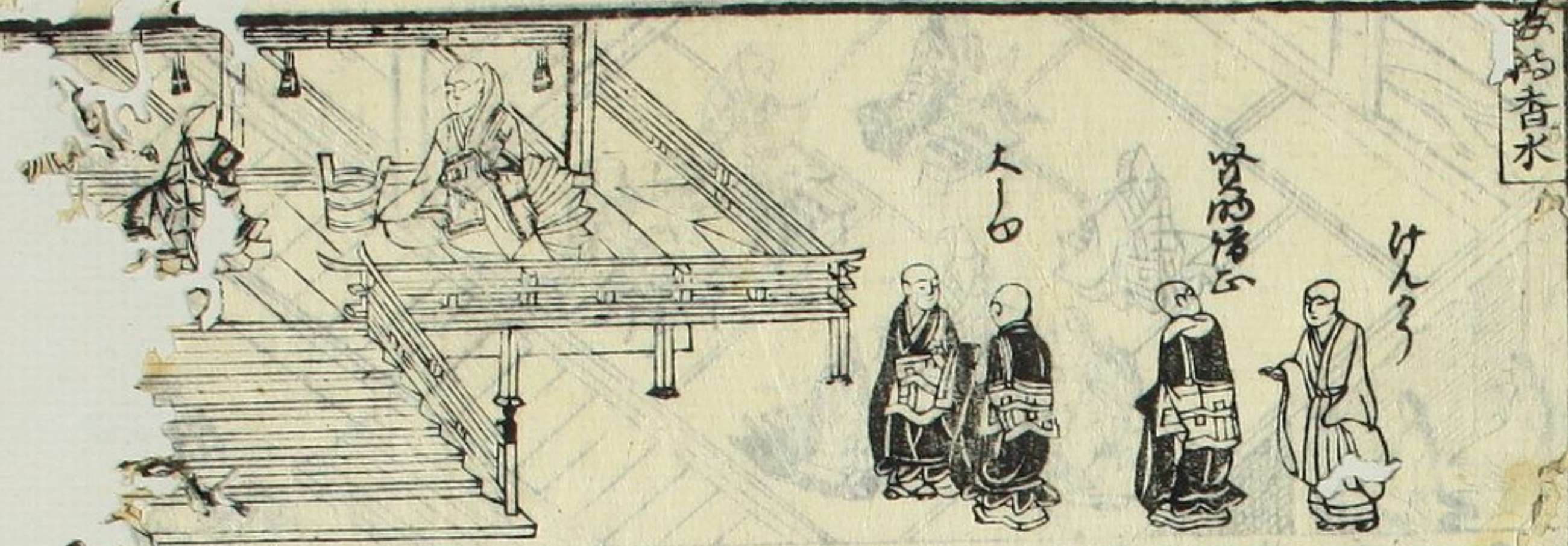


老上光院のほら
 常任光院のほら
 房物由法事として
 行の分は
 としたは
 款を
 ぞれを
 の中
 を
 教
 人
 の常
 作
 ま
 成
 なる
 を
 作
 作

老上光院のほら
 常任光院のほら
 房物由法事として
 行の分は
 としたは
 款を
 ぞれを
 の中
 を
 教
 人
 の常
 作
 ま
 成
 なる
 を
 作
 作

老上光院のほら
 常任光院のほら
 房物由法事として
 行の分は
 としたは
 款を
 ぞれを
 の中
 を
 教
 人
 の常
 作
 ま
 成
 なる
 を
 作
 作

横川
 老上光院のほら
 常任光院のほら
 房物由法事として
 行の分は
 としたは
 款を
 ぞれを
 の中
 を
 教
 人
 の常
 作
 ま
 成
 なる
 を
 作
 作



おきこりいふ... けんご えいご
 といひわらひいふ... けんご
 賢助侍いよともあひてか持香ありと見ゆ... けんご
 いまもいとねやどいふ侍いりて侍りし... けんご
 外まで侍たみいどは神とともをく... けんご
 子はおもひあつた... けんご
 ていと久かてかりし... けんご
 おきこりいふ... けんご
 二月十八日あるは... けんご
 てもういふより今びより... けんご
 侍りしは... けんご
 が... けんご
 里... けんご
 およりてあ... けんご
 とあ... けんご
 下... けんご
 かんありし... けんご
 い... けんご
 くら... けんご
 のぞきあ... けんご

後...



道公の言を聞きしはるはるの
心よりのあそびはるはるの

あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの

百五



水の面より月
あそびはるはるの
あそびはるはるの
あそびはるはるの



二子屋
外

あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの
あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの

あそびはるはるの心よりのあそびはるはるの

明治拾五年四月吉日

遠江國敷知郡

就身津村川原

野又理吉

明治十五年四月吉日

三
廣國教知郡

總持州司原

野末理者